



第28回トータルリビングショー・レポート<上>

家への考え深める場に

「第28回沖縄県トータルリビングショー」(主催・沖縄タイムス社、タイムス住宅新聞社)が17日から19日まで、沖縄コンベンションセンターで開かれた。「家族で見つける未来の設計図」をテーマに59社が出展。家づくりのヒントを伝える講演会と、エコな暮らしを多様に紹介した会場の模様を2回にわたってレポートする。

子ども連れの家族も多く見られ、にぎわった展示会場。各ブースでは、来場者が担当者の説明に熱心に耳を傾けていた＝沖縄コンベンションセンター

設備・建材中心に変化

今回、建材・設備に関する業者が24社とほぼ半数を占めた。特に、蓄電池とオール電化の組み合わせで、光熱費がカットできる利点をアピールする出展者が目立った。ある出展者は「太陽光発電システムの売電接続の中断を受け、提案内容を切り替えた」と説明した。

一方、住宅建築・リフォームの出展者からは、独自の工法で台風やシロアリ、塩害への強度を高めた本土発の木造住宅の提案も見られた。

自宅を新築する予定の玉城則子さん(38)＝南風原町＝は「鉄筋コンクリート造にしようと思っていたけれど、ブースを見ていると、木造もいいなと思った」と話した。

毎年訪れている新城篤さん(62)＝浦添市＝は、「ことしは太陽光発電システムの業者が少なくなっているように感じた」と率直な感想を語った。

次号は、「現在の家づくりで重要なこと」をテーマにしたパネルディスカッションの模様を取り上げる。



潮独自工法の木造住宅の組み立て実演に、来場者は足を止めて見入っていた

「建築士選びには面談を」



當間卓さん

住宅設計展セミナー(主催・県建築士事務所協会)で、同協会住宅委員長の當間卓さんが「安心して家を建てるには」のテーマで講演。

設計者選びのポイントとして、(1)建てたい家のイメージをまとめる(2)新聞やウェブを使って探す(3)建築士と面談する(4)完成見学会や過去の作品を見学する—を挙げた。「建築士との面談では、遠慮なく質問や自分の考えを投げかけてほしい。受け答えの中で、建築士の誠実さや発想の柔軟さ、対応力が分かる」と指摘した。

「境界線、設備まで確認」



宮城康さん

消費者講座「間違った契約をしないために」(主催・県宅建業協会)では、同協会広報啓発委員長の宮城康さんが、住宅購入時の注意点などを分かりやすく伝えた。

トラブル防止のため、契約前に登記状況や敷地境界線まで確認するよう説明。中古住宅では、物件状況確認書(告知書)や付帯設備のチェックも重要とし、太陽光パネルが設置されている場合は、「支払残高や保守点検の状況など、売り主と設置業者にしっかり確認してほしい」と呼び掛けた。